

## 早生で食味良好なオウトウ新品種「紅ゆたか」

わが国のオウトウの品種構成は、中生の「佐藤錦」が60%と大半を占め、早生種の比率は11%と少なく、優良な早生品種が求められています。また、オウトウが結実するには交雑和合性を持った受粉樹が必要なので、主要品種「佐藤錦」などと交雑和合性を持つことも新品種に求められています。山形県農業総合研究センターでは、国からの委託でオウトウの育種事業（農林水産省指定試験事業）を実施していますが、早生で食味が良好な新品種「紅ゆたか」を育成したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 1990年に「ビッグ」に「C-21-7」（「ピング」×「黄玉」）を交雑し、選抜・育成した系統が、2008年4月に農林水産省の農林認定品種「紅ゆたか」として認められ、2009年2月に種苗法に基づき品種登録されました。
2. 収穫期は育成地の山形県で6月中旬となり、早生品種に区分されます。「佐藤錦」より5～7日早く収穫でき、「高砂」とほぼ同時期です。
3. 果実の平均重は8～9g、糖度は18～19%、酸度は0.6～0.8g/100ml（リンゴ酸換算）で、甘味が濃厚で食味良好です。果肉はクリーム色で、果皮は赤色に着色します。果形は扁円形で横幅が広いのが特徴です（写真）。
4. 開花期は育成地の山形県で4月下旬で、「佐藤錦」より1～3日早く、「高砂」と同時期または1～2日遅くなります。花芽の着生は良好で毎年安定して結実します。また、主要品種「佐藤錦」や「紅秀峰」などと交雑和合性があり受粉樹として利用可能です。
5. 樹勢は中～やや強で、「高砂」と同程度です。枝梢の発生は中程度で、花束状短果枝の着生は多いです。灰星病、黒斑病、樹脂細菌病などオウトウの主要病害に対しては「佐藤錦」と同等の強さで、通常の薬剤防除で対応できます。



写真 オウトウ「紅ゆたか」の結実状況と果実

### ☆ 活用面での留意点

わが国のオウトウ産地全域で栽培が可能ですが、完熟果を収穫するためには雨よけ栽培が望ましいです。また、「高砂」、「紅さやか」、「紅てまり」などとは交雑不和合です。その他、詳細については、山形県農業総合研究センター 園芸試験場 バイオ育種科（電話 0237-84-4125）までお問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤明彦）